

「生物工学会誌」投稿規程

(1993年1月1日改正)

(2001年2月1日改正)

(2010年1月1日改正)

1. 論文は本会会員に限らず、会員外からも受け付ける。
2. 投稿論文は日本生物工学会（〒565-0871 吹田市山田丘2-1 大阪大学工学部内, E-mail: info@sbj.or.jp）に到着した日をもって受け付けの日とする。原稿に不備のあるものは受け付けない。
3. 投稿論文の採否は編集委員会に一任する。
4. 原則として**受理順**に掲載するが、編集の都合上前後することがある。
5. 掲載された論文の著作権は日本生物工学会に属する。
6. 原稿の種類は1) 原報文、2) ノート、3) 総合論文、4) 総説、5) 講座、6) 資料、7) レター、8) 生物工学教育とする。
7. 原報文およびノートは**未発表**のものであること。
8. 原報文、ノート、総合論文、総説は、英文抄録を添付する。英文抄録は単独で理解可能であること。刷り上り1/2頁以内とするが、やむを得ないときは1頁まで認める。
9. 原報文、ノート、総合論文、総説の図表は英文で作成する。英文は必ず専門分野の正確なネイティブ校閲を済ませて投稿のこと。
10. **原報文**の1編の長さは、原則として図表を含めて刷り上り6頁までとする。
※本誌の1頁は全角文字で約2200字取まるので目安にされたい。
11. **ノート**は限られた部分の発見で一つの報文にまとまらないものであっても、報告する価値のあるものであること。1編の長さは刷り上り4頁以内とする。
12. **総合論文**は著者の原著論文を中心とした特定分野の研究、業績の紹介を目的とした論説である。
13. **総説**は生物工学に関するすべての分野における多くの報告に準拠し、その進歩を要約する論説である。
14. **講座**は有用な理論、基本的技術あるいは実験手段の解説およびその実際的な方法をわかりやすく説明したものとする。
15. **資料**は内容に著者の主観をはさまないものとする。統計的歴史的資料も含まれる。
16. **レター**は新たな実験結果を伴わないで、意見、提案などを行うもの。原則として1頁以内とする。
17. **生物工学教育**は講義や学生実験での工夫、教材、新規の実験プロトコル、学生の理解度調査などの情報および問題点提起による情報交換の場とする。
18. **掲載料**は1頁につき4,500円とする。ただし、会員外からの投稿論文については掲載料を50%増とする。
19. **著者校正**は原則として初校を依頼する。すみやかに校正のうえ返信すること。著者校正は誤植の訂正にとどめ、内容の変更は原則として認めないが、やむを得ない場合は実費を申し受けることもある。
20. **別刷**は校正時に注文を申し受ける。注文部数は最小100部。費用の計算は次に定める算定表に示す(下表参照)。

別刷料金表

和文誌別刷料金 (表紙なしの場合)

頁	100部	150部	200部	300部	400部	500部
	円	円	円	円	円	円
1～4	3,700	4,800	6,000	7,200	8,400	9,600
5～6	5,600	7,000	8,000	10,200	12,400	14,200
7～8	7,400	9,300	10,700	13,600	16,500	19,000
9～10	9,300	11,600	13,400	17,000	20,600	23,700
11～12	11,100	13,900	16,100	20,400	24,700	28,400
13～14	13,000	16,200	18,700	23,800	28,800	33,200

(表紙つき1部25円増し)

※掲載料：1頁につき会員は4,500円、会員外は50%増。

※カラー印刷料金：1頁につき4万円。

※請求額：別刷り料、掲載料、送料(実費)に消費税を加算。

「生物工学会誌」投稿要領

1. **原稿用紙** A4判用紙で12ポイント40文字×30行を原則とし、和文は明朝体、英文はTimes New Roman, Centuryなどの標準的なフォントを使用する。
2. **標題** 意味のない語の使用を避けて具体的に記述する。「…に関する研究」等は省く。
3. **著者名・所属** 代表者（連絡先）に*をつけ、所属が複数の場合は^{1, 2}と記す。
4. **英文標題・抄録** 原報文、ノート、総合論文、総説には英文の標題、抄録およびKey words（5つ程度）を別紙に添付する。英文抄録は単独で理解可能とし、原則として刷り上り1/2頁以内とする。
5. **本文**
 - ・**原報文** 次の事項を遵守し、簡潔に記載する。
 - a) **結論** 研究の系譜と研究目的を明示し、総説的記述は避ける。
 - b) **実験方法および結果** 簡単明瞭にまとめ、既発表の実験方法はその文献のみを示し、詳細は避ける。
 - c) **考察** 論旨の簡明を旨とし、著者の実験結果の意義の説明に限定し、論拠のない仮説は避ける。
 - d) **要約** 簡単明瞭にして十分具体的に示す。
 - e) **文献** 本文中の引用順に列記する（次項参照）。
 - ・**ノート** 本文（見出しはつけない）、要約、文献の順に記載する。
 - ・**総合論文、総説、講座および資料** 本文の形式は原報文に準じる。

表記方法

1. **本文** 大見出し、小見出しなどを明瞭にする。見出しに番号はつけない。本文には頁ごとに行番号を挿入する。
2. **図および表** 本文中では「次の表」等の表現は避け、Fig. 1またはTable 1とする。写真も図とする。
3. **引用文献**
 - ・本文中の引用順に著者名または事項の肩に^{1), 2), …}の番号をつけ、論文末の文献欄に番号順に列記する。ただし、見出しには文献番号はつけない。
 - ・引用文献が2名までの共著は両姓を本文中に示し、3名以上の場合は筆頭著者のみ、たとえば小川ら⁴⁾とする。
 - ・記述順番は①番号、②著者名（全員の姓名を記述。英文はfamily name, firstおよびmiddle nameのイニシャル）、③書名（英文はイタリックで、編書の場合は編者名を（ ）に示す）、④巻（ボールド）、⑤初頁-終頁、⑥（編集成書の場合は）出版所名ならびにその出版地名、⑦（出版年）。
 - ・同上、ibidなどで雑誌名・書名を省略しない。例を参考にして：. . . の指定を明確にする。
 - ・原著として発表されていない学会報告、私信などは（私信）、（未発表）として本文中に示す。また、投稿論文で未受理のものは（投稿中）として本文中に示す。

- ・原著として受理され、巻・頁が未決定のものは、“in press”または“印刷中”として文献欄に記す。ただし、DOIが付与されている場合は明記すること。
- ・学会報告として発行される要旨集（Abstracts）、記録（Proceedings）は原著論文として文献欄に記す。
- ・引用URLは本文中ではなく、文献欄に記す。

[例]

- 1) Fujie, M., Takamoto, H., Kawasaki, T., Fujiwara, A., and Yamada, T.: *J. Biosci. Bioeng.*, **109**, 153–158 (2010).
- 2) Shioya, S.: *Advances in Biochemical Engineering/Biotechnology*, (Fiechter, A.), **46**, 111–142, Springer-Verlag (1992).
- 3) 卯津羅淳子, 桂樹 徹, 谷 吉樹: *生物工学**, **81**, 417–424 (2003).
- 4) 小川 宏, 山田太郎: *日本生物工学会大会講演要旨集*, p.106 (2009).
- 5) <http://www.sbj.or.jp/>

*「生物工学会誌」は和文論文への引用の場合は“生物工学”，英文論文への引用の場合は“*Seibutsu-kogaku*”で示し、第70巻（1992年）以前の「*醸酵工学会誌*」は和文論文への引用は“*醸酵工学*”，英文論文への引用は“*Hakkokogaku*”で示す。

4. 字体、記号略号

- ・**数字・アルファベット** 間違いやすい場合は1（エル）、1（イチ）、I（アイ）、O（オー）、0（ゼロ）等と表示する。
- ・**上つき文字、下つき文字** 特に注意し、その位置を明確に示す。
- ・**学名** 固有酵素名、化合物名は英文で記述する。ただし慣用的に使用されているもの、たとえば糖化型アミラーゼ、グルタミン酸などについては和名を用いてもよい。動植物学名はイタリック体とする。
- ・**量単位** 国際単位系（SI）を用いることが望ましい。
- ・**数式** 独立した式の文字（変数）は指定のない限りイタリックに組まれる。式の一連番号を（ ）で囲み、頁の右端に記す。文中の式は一行に収める。
- ・**脚注** 本文中に*、^a、^bなどを右肩につけ、その頁の下に横線を引き、下に記述する。

図表の作成

1. 原報文、ノート、総合論文、総説の図表は英文で作成する。
2. 図および表の実験説明は、本文を見なくても大要が把握できる程度の最小限のものであることが望ましい。
3. 図および表は本文とは別にし、本文中に（Fig. 1）、（Table 1）など挿入箇所を指定する。

<図>

- ・図は横幅が印刷面半裁の8.3 cm、全幅の13～17.5 cmまたは頁全体に縮小されることを念頭に、線の太さ、文字の大きさを決められたい。
- ・写真も図とする。顕微鏡写真などの縮小、拡大を正確に示すべ

き図では、必ず図中に標準尺度を示す線を記入する。×1000等では示さない。

- ・図の題名、説明文は別紙にまとめる。

<表>

- ・表は肝要にして記述に値するデータのみを表とし、題名は上に、説明文は下に記述する。表の題名（英文）はその終わりにピリオドを入れる。
- ・表中のコラムの頭には適切な題をつけ、適切な略字を用いて短くし、単位を明示する。コラム、ラインに番号をつけることは、本文引用に必要な場合を除き避ける。
- ・表はテキスト形式で作成のこと。（PowerPointは避ける。画像とみなされるため印刷に適さない。）

図の例

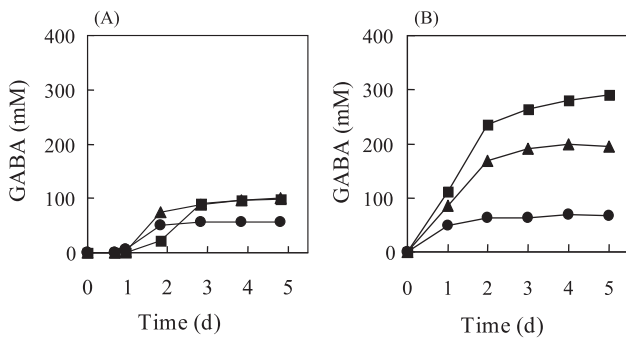


Fig. 2. Time course of GABA production by *L. brevis* IFO 12005 (A) and *Lactobacillus* sp. L13 (B). The strains were cultivated in GYP medium (pH6.8) in multiple concentrations of sodium glutamate (●, 70 mM; ▲, 200 mM; ■, 340 mM) for 5 d at 30°C.

表の例

Table 1. The specific surface area and pore volume of the mesoporous composites synthesized with different weight ratios of alumina to clay.

Alumina/Clay	Specific surface area (m ² /g)	Pore volume (cm ³ /g)
0.50	150	0.17
0.75	157	0.21
1.00	223	0.32
2.00	216	0.35

The mesoporous composites synthesized by using sodium laurate.

1. E-mailによる投稿：標題は<生物工学投稿>とし、その本文には①原稿標題、②表紙用タイトル（15字以内）、③著者名、④代表*連絡先（TEL, FAX, E-mail）、⑤原稿種別、⑥原稿枚数を明記し、事務局・和文誌編集係宛（info@sbj.or.jp）に送付する。
2. 原稿は「本文（標題・著者・所属含む）」、「表」、「図」、「図説明文」、「英文標題・著者・所属・要旨」をそれぞれ別ファイルに収める。※「本文」は頁ごとに行番号を挿入する。
3. 写真は、画像の解像度が掲載サイズで350 dpi以上、EPS、TIFF、JPEG形式でなるべく高解像度低圧縮で送付する。
4. 英文は必ず専門分野の正確なネイティブチェックを済ませておくこと。
5. 郵送などによる投稿：1号巻末の「送り状」を添付のうえ、事務局宛に送付する。